

指導農業士会によるスマート農業研修の開催を支援

11月18日に、彦根市日夏町地先の現地ほ場とグリーンピアひこねを会場に、県指導農業士会湖東支部と大津・湖南支部の合同研修会を湖東支部主催により開催しました。

本研修会は、「湖東新規就農者技術向上ステップアップ講座」との合同開催とし、当課が主体となり、大津・湖南支部事務局と連携を取りながら運営を支援しました。

両支部合わせて18名の指導農業士と、新規就農者3名、関係機関6名が参加されました。

研修はスマート農業をテーマとし、まず現地ほ場でAI化自動収穫機によるキャベツ収穫の実演を見学し、自動収穫機のしくみや省力化への効果等について説明を受けました。続いて、会場をグリーンピアひこねに移し、指導農業士会員である福原氏を講師に、(有)フクハラファームのスマート農業の取組から、大区画化と面的集積による徹底した低コスト化や、ICT化の目的、様々なデータの蓄積や共有による効果等について研修していただきました。

その後の情報交換会では、農地の集積集約の進め方等について両支部会員で活発に意見が交わされました。また、新規就農者からの収益確保、農業機械の導入や維持管理についての質問に対し「いいものを作るのは当たり前で、これからはいかに売るのが大事」「機械の導入や管理は、自分がしたい農業、かけられるコストに合わせて行うもの」等のアドバイスが指導農業士からなされました。

今回の研修会には、コロナ禍にありながら予想を上回る多くの方に参加いただき、スマート農業に対する興味の深さがうかがえました。

農産普及課では、今後も指導農業士会との連携により、担い手育成、世代を超えた生産者同士の交流を促進し、地域農業の発展につながるよう支援していきます。



AI化自動収穫機によるキャベツ
収穫作業に見入る参加者



福原氏による取組紹介



活発に意見が交わされた情報交換会